

創立 50 周年記念祝賀会を開催しました

2020年1月23日(木)、栃木県生活協同組合連合会 創立50周年記念祝賀会を開催しました。
 栃木県知事をはじめ、ご来賓の方々、今まで栃木県生協連をご支援くださった大勢の皆様にご参列いただき、長年のご厚情への感謝をお伝えしました。

フルート、オカリナの演奏
 創立50周年記念祝賀会
 今後の発展をともに願う会となりました。

主催者挨拶
 主賓・福田知事ご祝辞

乾杯のご発声

鏡開き

50周年誌と、布草履をお渡ししました。
 (グルニープホームの認知症の方の手作り)

半代別の主な活動
 70年代～80年代 物産博覧会や生活協同組合の職員交流会(即会名制では、生活協同、協同組合)
 90年代～2000年 女性の役員が増え、男女共同参画、食の安全、消費者問題、福祉など、暮らし全般に関する活動に対して、組合員対象の学習活動を強化。(女性部会、専業主婦会、福祉部会)
 2000年代以降 協会活動でも、老健協との協働活動が広がりました。また、さらに進んで、ネットワーク構築を促進した活動を行ってまいりました。

パワポで活動紹介

創立50周年記念祝賀会
 2020年1月23日(木)開催

下野新聞取材

栃木県生活協同組合連合会 会員一覧

16 団体 (会員 12 団体、賛助会員 4 団体)

会 員	栃木県職員生活協同組合	〒320-8501 宇都宮市埴田 1-1-20	028-623-2530
	宇都宮市職員生活協同組合	〒320-8540 宇都宮市旭 1-1-5	028-632-2965
	プリチストン那須グループ生活協同組合	〒329-3154 那須塩原市上中野 10	0287-65-2481
	生活クラブ生活協同組合	〒321-0911 宇都宮市問屋町 3426-30	028-657-8161
	生活協同組合パルシステム茨城 栃木	〒310-0022 茨城県水戸市梅香 2-1-39	029-227-2225
	とちぎコープ生活協同組合	〒321-0195 宇都宮市川田町 858	028-634-5115
	よつ葉生活協同組合	〒329-0201 小山市大字栗宮 1223	0285-45-9100
	足利大学生協同組合	〒326-0845 足利市大前町 268-1	0284-62-5882
	宇都宮大学消費生活協同組合	〒321-8505 宇都宮市峰町 350	028-636-1995
	栃木県学校生活協同組合	〒320-0065 宇都宮市駒生町 1359-37	028-652-3324
	栃木保健医療生活協同組合	〒320-0061 宇都宮市宝木町 2-2554-14	028-652-3714
	こくみん共済 coop (栃木県労働者共済生活協同組合)	〒321-0963 宇都宮市南大通り 2-5-4	028-635-6031
賛 助 会 員	こらぼワーク (企業組合とちぎ労働福祉事業団)	〒321-0152 宇都宮市西川田 7-1-2	028-654-5561
	中央労働金庫栃木県本部	〒320-0052 宇都宮市中戸祭町 821	028-622-4296
	社会福祉法人ふれあいコープ	〒321-0165 宇都宮市緑 5-13-6	028-616-6500
	生活協同組合パルシステム群馬	〒370-0033 群馬県高崎市大類町 120-11	027-384-4774

会員それぞれの専門性と特色を活かし、地域の中で連携して諸課題の解決に取り組んでまいります。
 今後とも、ご指導ご鞭撻いただけますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

とちぎの生協

〒321-0968 宇都宮市中今泉 2丁目 7-19 204号
 TEL:028-680-5592 FAX:028-680-5593
<http://tochigikenren-coop.com> Eメール info@tochigikenren-coop.com

VOL.30 初夏

栃木県生活協同組合連合会 創立 50 周年記念 特集号

—1969年6月28日、栃木県生活協同組合連合会は創立されました—

ごあいさつ 会長理事 竹内 明子

栃木県生活協同組合連合会は、多くの皆様のご協力とご尽力を賜り、その設立から半世紀を歩むことが出来ました。

県連が設立された五〇年前、即ち一九六〇年代後半から七〇年代という時代は、急激な高度経済成長によって引き起こされた河川汚染、大気汚染、土壌汚染が顕著になり、深刻な問題となっていた時でした。また、食品公害など私達の暮らしに関わる問題も多く噴出された時代でもありました。

県連の設立当初は、職域生協が中心となって自身の抱えている問題に対し連携して取り組み、組合員の暮らしに貢献していました。その後、大学生協、医療生協、地域生協が設立されてそれらが県連へ参加したことで、県連自体も食品の安全性、環境問題、消費者問題、医療や福祉の問題、男女共同参画といった暮らし全般に関わる問題を取り上げて活動して行くようになりました。

また災害支援に関しても出来る限り被災者の皆様に寄り添えるように、継続的に行えるように心掛けてまいりました。東日本大震災では、当初の現地へのボランティア派遣はもちろんのこと、二〇一一年九月から二〇一六年八月まで栃木県に避難されてこられていた方々を対象に毎月一度、また二〇一二年三月から二〇一七年の三月にかけて福島県いわき市四倉の仮設住宅にも月に一度訪れて、ふれあいお茶会を開かせて頂きました。お茶会での出会いは、日常の暮らしが一瞬で破壊され、家族の在り方も変わらされて深い

悲しみを抱えている方々の一瞬の憩い場になっていたように思います。嬉しいことに今も子供さんの成長などをお便りくださる方がおいでになります。

このお茶会を支えて下さったスタッフは、組合員理事の皆さんであり、中には栃木県といわき市の両方に関わって下さった方もおりました。どちらのお茶会でも理事さんたちは、少しでも居心地の良い場を作ろうと一所懸命に努力されていました。お茶会のための食事の下ごしらえをして朝早くに家を出て、三、四時間かけていわき市の仮設住宅へと真摯に向かう皆様の姿は、今でも目に浮かびます。

このように生協の活動というのは、他者を想える人々の心と行為で成り立っています。今日の協同組合の使命である「誰一人取り残さない社会づくり」は、決して生易しい課題ではありませんが、この困難な課題の実現にはこうした組合員の皆様の気持ちや使命感のある職員が存在が不可欠であると思っています。

これから更に加速化するであろう少子高齢化の時代は、生協にとっても今まで経験しえなかった難しい問題に直面することになります。しかし、一人一人の命を第一義とし、人と人とが手を携えて、人と自然が共生できる社会を目指し、民主主義の原点たる参加することを大切にして歩むならば、どのような社会の中でも生協の存在する意義は果たして行けるとと思っています。

今まで寄せて下さった皆様のお心に感謝申し上げますと共に、これからもご指導ご鞭撻頂けますように宜しくお願い致します。

